

# 藤井市政2期目スタート 進取果敢に切り拓く

3月5日から藤井市長2期目の市政運営がスタートしました。

「継続は未来への力」を掲げ当選した藤井市長が、2期目のマニフェストを中心に今後の市政について語ります。聞き手は、市民活動やまちの情報取材し、発信しているインターネット情報局「STUDIOこほく」代表のケイミー板山きよ美さん。市民目線でマニフェストの概要を聞きました。

## 1期目の礎に施策の花を咲かせる

**板山** まずは再選おめでとうございませう。合併直後の「長浜」をあくかられた1期目は、まとめてこられるのに大変ご苦労があったと思いますが、2期目の抱負をお聞かせいただけますか。

**市長** これまでの4年間で新しい長浜市の「礎」は築けたと自負しています。地域づくりや教育、再生エネルギー、福祉など、さまざまな「種」は植えました

から、今後は陽をあて、水や肥料をやりに、実らせていく時です。マニフェストにあげた8策66項目を実現させ、進取果敢に長浜の未来の希望を切り拓いていきます。

**板山** 「進取果敢に切り拓く」という言葉に大きなエネルギーを感じます。市長が掲げられた公約の中で、特に重きを置いているものは何ですか。

## 中心市街地の活性化と北部振興

**市長** 「長浜市」の最大の特徴は琵琶湖とほぼ同じと言われる面積です。それを大きく北と南に分け、それぞれを車の両輪として発展させ、市全体の活性化につなげていかなければと思っております。

南部の目玉は長浜駅周辺地区の再開発です。駅前には市の顔ともいえる場所ですので、長浜らしい、景観に調和した再開発を行い、黒壁や商店街を盛り上げることで点から面に広がる賑わいを創出したいですね。

**板山** 再開発は、今後どのように進められるのですか。

**市長** 現在南地区の開発が始まっていますが、順次、東地区・北地区にエリアを拡大してまいります。「長浜の顔」として、伝統と自然を暮らしのなかに生かして美しく住めるよう、地域の皆さんとともに知恵を出し合い、5年位を目途に完成する予定です。

**板山** 市役所庁舎は来年1月にグランドオープンを迎えますが、現在の庁舎

はどうなるのですか。

**市長** 跡地利用については、市民が利用できる施設や商工・観光の視点などから、さまざまな用途が考えられますので、市の方針を6月までに市民の皆さんにお示ししたいと思っています。

**板山** 北部地域の振興施策としてはいかがですか。

**市長** 北部には木之本ICがあり、国道8号線沿いに大きな商業施設や工場が集まっている地域ですので、さらに伸ばす必要があります。また豊かな自然と歴史文化は魅力的な地域資源です。これらを活かし、黒田官兵衛博覧会の成功と木之本の活性化、余呉の交響の郷づくりや首浦集落の重要な文化的景観事業、余呉湖や西浅井の桜など美しい自然を活かした観光事業、高月の花と観音の里づくりなど皆さんとともに進めていきます。

それから、29年春に「小谷城スマートIC」が誕生しますので、それを核としたまちづくりにも力を入れていきます。どこをとっても元気で活力あふれるまちにしたいですね。

**板山** 確かにそうした伝統産業や戦国のスポット、また豊かな自然があるのは、市内外へ発信できるポイントですね。一方で過疎や少子化など、課題もあると思いますが。

**市長** 市最北部のエリアは高齢化率も高いです。こうした地域では、医療や買い物など、毎日の生活に支障が出ないよう、行政の網を張ることが大切だと思っております。

**板山** そうですね。毎日の暮らしを守ることが実は一番大切ですね。その点で、災害時の備えはいかがですか。

## 災害に強くなります

**市長** 自助・共助・公助の考えをもとに大規模災害に強いまちをつくるため、いくつもの施策を実施しています。例

えば訓練ですが、図上防災訓練を行うことで実地の防災訓練を行うと、想定外のことが出てきます。それを改善することがよりよい備えにつながるのだと思います。

**板山** いざというときに活かせるものにしたいですからね。それに、災害時に誰もが思うのは、正しい情報を得たいということですね。防災行政無線というものがありませんが、聞こえにくいんですね。やはり、情報弱者を作らない対策が必要ですね。

**市長** 災害時の情報提供については、防災行政無線以外にもインターネット、広報車などの活用、そして何よりも自治会や地域の自主防災組織と連携しながら万全を期していきたいと考えております。

## 子育て・少子化対策施策のパッケージ化

**板山** 子育て環境を整えるということについて、市長がトップに立って進めていられるようですね。

**市長** 3月に「子ども子育て支援少子化対策推進本部」を立ち上げ、私が本部長に就任しました。少子化は、日本全体の問題ですが、個別に支援策を講じていてもだめです。出会いから結婚、出産、子育て、教育、そして就労も含め、全庁あげて取り組んでいきます。長浜で暮らすと快適だと若い世代に感じてもらわなければ、人口減は食い止められませんか。



長浜市長 藤井勇治の横顔

昭和25年長浜市生まれ  
約30年にわたり国会議員の秘書や大臣秘書官を務め平成17年衆議院議員に初当選。平成22年に長浜市長選に立候補し当選。今回再選を果たした。座右の銘は「至誠通天」。誠を尽くせば願いは天に通じる、誠心誠意尽くせば必ず願いは叶うという意。趣味は、山登りと映画鑑賞。現在は、月1本見られるのがやっと。体調管理のため毎日の食事に「たまねぎ」を取り入れている。



新庁舎 バルコニー

## 市民活動支援

**市長** おっしゃる通りですね。そうした気持ちに住みよいまちをつくるのでしよう。

**板山** その施策推進委員などに、子育て世代の市民をぜひ入れていただきたいですね。若い人を委員として登用することで、その人の意識も高まるでしょうし、自分が長浜市をつくるんだという気持ちも芽生え、それが人づくりにもつながると思います。

**市長** 秀吉公時代の町衆文化の影響でしょうか、長浜の市民エネルギーは非常に大きいです。また、市内にはNPO法人や市民活動団体がたくさんあり、それらが連携すればものすごいパワーになると思っています。そのきっかけとなるような、総合窓口的なものを作っていきます。

**板山** 長浜にもできるとうれしいです。長浜の観光地としてのブランド化はかなり進んでいると感じています。これからは暮らしやすさを結集する「長浜スタイル」のブランド化が進むといいですね。



新庁舎 市民交流ロビー

聞き手 ケイミー板山きよ美さん  
「STUDIOこほく」代表。その他にFM滋賀e-radioパーソナリティを務めるなど多方面で活躍中。昨年度からSTUDIOこほくと長浜市は、協働による情報発信事業を展開しています。